

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1丁目)

事業所番号	0690100763		
法人名	社会福祉法人 友愛会		
事業所名	グループホームおおさと		
所在地	山形市大字中野469番6		
自己評価作成日	令和 3年 1月 5日	開設年月日	平成 29年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は大郷地区の静かな佇まいの中に位置し、近隣には大郷小学校やコミュニティセンター、八幡神社、小川の土手には桜並木等、社会資源が豊富で、大変環境に恵まれた生活拠点となっています。子供たちとの交流を始め、地区の文化祭や夏祭り等を通じて地域交流も図りながら、ご利用者様一人ひとりが楽しみを持って生活できるように支援しています。また、自立支援を目指した日々の役割作りにも力を入れ、残存機能の維持向上は勿論の事、やりがいや生きがいを継続して持てるように個別ケアにも取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 2月 12日	評価結果決定日	令和 3年 3月 1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目の前が小学校という立地条件に恵まれ、利用者は水害想定の手続き訓練への参加や子供たちの登下校を窓越しに見守り、顔なじみになるなどの交流を行っています。今年度はコロナ禍で外出や家族等との面会なども自粛しており、利用者のストレスを少しでも軽減したいと職員は事業所内で安全に出来るイベントを数多く考えて実行し、利用者に喜ばれ笑顔や楽しみに繋がっています。家族等とはお便りや電話などで連絡を取り合い、様子がわかって安心出来るとの声が聞こえています。職員は再開している外部研修に積極的に参加し、年間研修計画に沿った内部研修や法人合同の段階に応じた研修参加で人材育成に取り組んで職員全体のレベルアップを図り、基本方針にある質の高いサービスを目指して努力している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事業所内に掲示し、年度ごとの基本目標に合わせて部門目標を設定している。日々のケアの中で反映させ、モニタリングやケアカンファレンスを通じて充実を図り、職員は、年2回の人事考課制度の中でも評価・確認を行っている。	法人の理念・基本方針・年度毎の基本目標に基づいて毎年度「おおさと介護部門目標」を職員の意見を集約して作成し、法人全体の業務概要を各自所持して目標を共有している。職員はアイデアを出し合って利用者を楽しんでもらうイベントを開催し、笑顔や表情から手ごたえを感じている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ感染予防の観点から、直接的な交流は少なく、水害想定避難訓練を大郷小学校と近隣の保育園との合同で行ったのみだった。施設の活動報告は二か月毎の広報紙を回覧板へ入れて頂き発信していた。	コロナ禍で地域との交流も自粛しているが、小学校主催の水害を想定した合同避難訓練に近くの保育園と共に参加し、利用者の階上への避難などに課題も見つけたり有意義な訓練となり、今後も継続の予定である。登下校の小学生を窓越しに見守る交流を続けて、顔なじみの関係になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大郷小学校の登下校時において、子供見守り隊として施設の中から、三密を避けながら子供達との交流を図っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	山形市とも協議しながら、コロナ感染予防の観点から面会等の自粛も行っていた為、運営推進会議等の招集も行っていない。	概ね3ヶ月毎に開催していた運営推進会議を今年度はコロナ禍で休止していたが、紙面会議で再開し利用状況や活動報告をして委員から評価・アドバイスを受けている。地区代表メンバーとは地域行事の案内や情報交換して透明性を図り、開かれた事業所を目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主にメールや郵便を利用し関係機関との連携を図っている。必要に応じて、直接、電話連絡をする事もあった。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得て、情報や客観的な意見をもらっている。不明点の問い合わせなどは市担当者とメール・電話・直接窓口に向いて情報交換している。介護相談員の訪問は休止していたが、1年間の活動状況報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束ゼロ運動の周知・徹底を行っており、年間の研修計画の中でも身体拘束・虐待についての勉強会を必ず取り入れ、職員の理解、廃止に向けた意識の確認を行っている。また、安全衛生委員会の中でも、日々の業務を振り返りながら、身体拘束廃止に向けた検証を行っている。</p>	<p>身体拘束マニュアルや内部研修で職員は理解し、また安全衛生委員会では事例を上げて検証して拘束のないケアに取り組んでいる。帰宅願望のある利用者には不安要素を解明して安心に代わるような声掛けを工夫し、ときには散歩などで気分転換を図り家族等にも説明して理解を得ている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束・虐待については、同時期に勉強会を開き、虐待の無い介護への取り組みを行っている。特に入浴時にはアザ等が無いか全身の状態観察を行ない、発見時には職員全体に報告・周知して検証を行っている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在のところ、ご利用者様に該当する方が居られない事もあり、全職員が権利擁護に関して、知識や理解を習得するまでには至っていない。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>サービス利用開始日に契約内容と重要事項の十分な説明を行い、入居者、ご家族からご理解を頂いてからサービスを開始している。また、重要事項説明書の内容に変更がある場合には、入居者、ご家族に説明して書面にて同意、承諾を頂いている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情・要望・ご意見に関しては、第三者委員も含め、随時、受付しており、管理者が窓口となり解決に向けた取り組みを行っている。支援計画書の作成に当たっては、直接、本人、ご家族のニーズを確認しケアに反映させている。</p>	<p>家族等はコロナ禍で面会を自粛しており、毎月担当職員から写真付きの近況報告が送付され、様子がわかって安心出来るとの声が聞こえている。利用者の小さな変化も電話などで家族等に連絡し、介護計画作成時には意見交換して日頃から接点を多く持つようにして信頼関係に繋げている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月行われる職員会議やユニット会議でも、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。また、年二回の人事考課制度の面談時にも個別に話ができる機会を設けている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の人事考課制度の中で職員の実績や頑張りを評価する機会を設けている。今期の成果を互いに確認し、次期の目標設定や資質向上に向けた話し合いを設けている。労働環境や条件についても随時対応し働きやすい職場環境に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に従い、施設内研修の他に、外部研修や法人研修に参加。新人研修、中途採用者研修、中堅職員研修、教育担当者研修等、職員のレベルに応じた研修を準備し人材育成に取り組んでいる。	職員は再開した外部研修に積極的に参加し、年間研修計画に沿った内部研修や法人合同の段階に応じた研修参加で人材育成に取り組む、職員全体のレベルアップを図っている。年2回、法人の人事考課制度の中で職員は自らの目標を作成し、管理者との個別面談で評価・確認をしている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム連絡協議会とはメールを通じて情報交換の機会があったが、職員の交流は、介護関係者は尚更、コロナ感染予防を優先させ積極的な交流は控えていた。	山形県グループホーム連絡協議会・経営青年委員会・地域包括支援センター主催のネットワーク連絡協議会に参加しており、今年度は主にメールでの情報交換になっている。職員は外部研修参加時に他事業所との交流を通して刺激を受けてモチベーションが上がり、サービスの質向上に繋がっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメントの段階で、十分な聞き取りを行い、ご本人が過ごしやすい環境を整えるようにしている。要望があれば速やかに対応し、安心した生活環境の確保に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や毎月のお便り等で、状況をより詳しくお伝えすると共に、支援計画書作成に当たっては、ご家族の想いも反映させ共有できるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活環境に慣れた頃、概ね3か月以内で多職種間での課題分析を行い支援方法の見直しを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様には、自立支援を促しながら、能力に合わせた役割を持ってもらい、職員も含めた共同生活の関係性の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便り等でも生活状況は報告しながら、変化が見られる時には、随時、ご家族様とも相談しながら対応を検討して進めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で馴染みの人や場所との関わりは極端に少なかった。唯一、竜山の生まれ育った町を見たいと希望があり、外出支援を行った。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の相性を考慮しながら、時には職員がさりげなく声がけ等の橋渡し役に努め、日々円滑に過ごせるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて関係機関への情報提供やご家族とのやり取りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、ご本人様の意向・希望の把握に努めている。意思表示が困難な方には、ご家族様に聞いたり、表情や行動の変化を職員間で共有するように努めている。	利用者の思いは日常の何気ない会話から引き出し、言葉が苦手な方からは家族等からの情報や表情などから受け止め、ときには筆談なども利用している。夕食後はリビングや居室など好きな場所で過ごしてもらい、消灯時間を設けることなく本人のペースで就寝している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話から昔話としてご本人様から聞き取りが出来る場合もあれば、前任の担当ケアマネやご家族様から情報提供を受ける場合もある。過去の生活歴を把握しながらサービス提供に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しの状態変化も業務日誌やケース記録、申し送りノートを活用しながら、情報の共有に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、カンファレンスを開催しながら、随時見直しを行っている。計画書の作成に当たっては、ご本人様、ご家族様の意見・意向を取り入れ、介護職員、看護師からも話を聞き、より具体的な支援内容になるように努めている。	現状にあった介護計画になるように利用者・家族等の希望を聞き取り、家事活動や地域行事への参加などこれまでの生活が継続できよう課題を分析して目標を作成し、家族等の意向と利用者に温度差があった場合は調整役になる時もある。健康面では主治医・看護師からの意見も取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアの記録は、業務日誌やケース記録に残し、気づきや変化等は申し送りノートも活用しながら職員間で共有している。内容によってはケアカンファレンスやユニット会議でも検討を行っている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、全てにおいてコロナの影響で、文化祭の参加やボランティアの慰問、スーパーへの買い物も中止している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を確認しながら、嘱託医と連携し、適切な医療が受けれる環境を整えている。月2回の往診の他にも、体調不良時にはオンコールでの指示や臨時往診等、日々の健康管理に努めている。	希望するかかりつけ医への通院は家族等の協力を得ているが、契約している利用者には、嘱託医から月2回や臨時的往診がある。看護師は常勤しオンコール体制をとって健康管理等を行っており、安心して過ごせるよう支援している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に留意しながら、異常時には看護師へ報告しながら対応している。看護師不在でもオンコール体制を取っており、必要に応じては嘱託医へ連絡する等、速やかに医療へ繋いでいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、ご家族様や嘱託医、医療連携室との連携を密にし、ご本人様が安心して治療に専念できるような支援を整えている。退院時には、お身体の状態に合わせて、退院前カンファレンスを依頼する等、施設に戻ってからの注意点を確認し、職員間で共有出来るように努めている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>要介護度3に達した時点、もしくは共同生活が困難になった時点で、ご家族様との話し合いを行い、今後の方向性について一緒に確認している。その上でご本人様にとって最善のサービスが受けられるよう、可能な限り提案している。</p>	<p>契約時に重度化した場合(要介護度3・共同生活が困難になった時)は家族等と話し合い、今後の方向性を示すことを本人・家族等から理解を得ている。現状を把握し職員間で情報を共有し連携しながら、最善の方法や方向性を提供するよう取り組んでいる。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年2回、消防署で行う救命講習に参加し、初期対応の訓練を行っている。他にも、内部研修では緊急時マニュアルの確認等、万が一の事態に対応できるように準備を進めている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>全ての災害に合わせて、年間と通じ訓練を実施している。水害に関しては、小学校や近隣の施設とも話し合いを重ね、避難場所の確保や協力体制の確認に努めている。</p>	<p>防災委員会が中心となり、あらゆる災害を想定して利用者も参加しての防災訓練を実施している。水害の訓練では小学校や保育園等と避難場所や協力体制の確認等を実施し、地区会長等からは避難する際、水没する道路情報等をもらい連携を図っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>ご利用者様一人ひとりの尊厳、人格の尊重は勿論の事、何より人生の先輩であることを忘れずに、温かみのある言葉使いを意識して取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの気持ちに寄り添い、プライバシーを守り人格を尊重しながら居室や風呂での1対1を大事にして関わっている。親しみを持った言葉掛けも必要だが、馴れ合いにならないよう注意しながら、色々な事を聞き出し尊厳を守り生活の中で活かせるよう支援している。</p>		
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>普段の生活の中から、希望、要望等を吸い上げ、自己選択、自己決定ができる様に心掛けている。困難な方については、ご家族様と相談するなどして、ご本人様が望む生活に近づけるように支援している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課に合わせた生活を送るのではなく、その日の体調や気分を伺いながら、寄り添った生活が送れるように支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさが出るように、意向を伺いながら決めている。ご自身で決められない方は、ご家族様に相談しながら、その方が好む衣類を準備して頂く等、配慮した対応を心掛けている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好に合わせて個人購入をしたり、ご家族様から届けてもらったりして食事を楽しんで頂いている。家庭菜園で採れた南瓜や大根を使って、一品追加したり皆さんで召し上がっている。	おかずは配食センターを利用しており、ごはんのみそ汁は職員が交替で調理し、盛り付けや配膳、あと片付け等は利用者と共にしている。イベントの調理レクリエーションでは、家庭菜園で採れた大根で「おでん」を作り、収穫した季節ごとの野菜等も食卓に載せて一品多いおかずを食し楽しみとなっている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立やカロリー計算は委託業者の栄養士がバランス良く考えて立てている。食事量や水分量は当日の職員が把握し記録に残している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施と週1回の歯科往診があり、毎回、歯科衛生士から口腔内のチェックを受け、必要時には医師の治療を受けている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄や夜間もトイレを使用する等、最後まで排泄機能を残した取り組みを行っている。必要に応じては二人介助でもトイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を活用して一人ひとりのパターンを把握し、時間等を見計らいながら自尊心に配慮した個別の声掛けでトイレ誘導を行っている。身体機能により二人介助の方も安心してトイレでの排泄が長く続けられるよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分補給、乳製品等、食品による自然排便を目指している。便秘症の方には、嘱託医とも連携しながら、下剤による排便コントロールも行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しては、個人の好き嫌いや回数の問題もあり、現在のところ自由に入浴できる体制にはなっていない。当日の朝に予定者の方に声を掛けをして、順番等を確認しながら格差が出ないように進めている。	日替わりで入浴剤を使用し変化をつけ楽しみ、介護浴槽で入浴する方や寝る前入浴等、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて柔軟な対応をしている。安心感をもってゆっくり入浴出来るようさりげない言葉掛けや工夫をして、皮膚疾患等の身体状況の確認等も行い健康管理にも努めている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を設けることなく、本人のペースで就寝して頂いている。人によっては午睡を設けたり、居室もご本人が安心して休めるように、家族写真を置いたり使い慣れた家具を持ち込んだりと工夫している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援について、処方された薬を飲み忘れが無いように複数の職員でチェック表を用いて確実に服用して頂くように支援している。ご利用者が薬の内容や副作用までを理解したり、その件を説明までには行っていない。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力、意欲に応じて役割を持って頂いている。生活に張りや喜びを感じて頂けるように、一人ひとりの楽しみや趣味、希望を考慮しながらやりがいに繋がるよう支援している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ感染予防の観点から、外食や買い物等の外出支援は自粛している。但し、少人数で車から降りないドライブ等、気分転換を図っている。	今年度はコロナウイルスの感染症予防のため外出を控えたが、少人数で降車しないドライブに出掛けた他、子ども見守り隊として小学校の登下校時交流ホールで手を振ってあいさつや、見守りをしている。室内イベントを多くし、調理レクリエーションを行うなどして気分転換等を図り、穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設内では現金を使用する機会が無く、施設で管理させて頂いている。必要に応じて一緒に買い物に行くなど、金銭感覚を忘れないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際はご家族と電話で話をしたり、携帯電話の使い方を手伝ったり支援している。手紙を書く機会は少ないが、毎年、年賀状をご家族様宛に書いていただき投函している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じて頂けるように飾り付けを工夫したり、洋間の他にも畳のスペースを準備して、気分によってリラックスできるように生活空間を整えている。また、快適に過ごせるように空調管理にも配慮し、温度、湿度も季節に応じて調整している。	大型の加湿器を設備して温・湿度の空調管理を行い、利用者同士の相性を考慮してテーブル等を配置している。書き初めや文化祭に出品する作品等を展示・装飾して季節を感じるよう配慮し利用者が寛げるよう気配りしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは座席を決める事によって、ご本人様も自分の場所として安心に繋がっているようです。相性の良し悪しは慎重に検討し、ソファでくつろいだり、テーブルを増やす等、楽しく過ごして頂けるように工夫しています。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室内のレイアウトは自由に行って頂いています。ご自宅で使われた家具や小物は、持ち込んで頂き、ご本人様が過ごしやすいように一緒に配置しています。	居室には備え付けのベッドや収納ケースの他にテレビ・テーブル・仏壇等自宅で使用していたものを持ち込んで転倒等無いように動線に注意して配置している。利用者と職員が毎朝一緒にほうきやモップで清掃を行い清潔に努めている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、テーブル等には目印になるものを付けたり、必要な方には名前を大きく貼る事で不安を減らし、ご本人が出来る事を増やせるように支援している。			